

和水町文化財調査報告 第6集

す わ の は ら い せ き
諏訪原遺跡

前原・浦谷線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2009年

熊本県玉名郡和水町教育委員会

和水町文化財調査報告 第6集

跡 遺 原 訪 諏

前原・浦谷線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2009年

熊本県玉名郡和水町教育委員会

序 文

和水町教育委員会では、埋蔵文化財包蔵地内での道路改良工事に伴う発掘調査を実施いたしました。

当地は、諏訪原台地の北東部に位置し、弥生時代から古墳時代にかけての大規模集落地として知られています。今回の調査により、中近世の溝状遺構や弥生時代後期の住居跡が確認され、集落地北東部の境界がわかりました。

本報告書が多方面に亘って広くご活用いただけることを心から願っております。調査にあたって、多大なご協力とご理解をいただきました関係各位の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成21年3月31日

和水町教育委員会 教育長 相 澤 紘 一

例 言

1. 本書は、町道前原・浦谷線道路改良工事に伴い、和水町教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 本書におけるレベル高は標高で記し、図中に使用した方位は磁北である。
3. 発掘現場での実測及び写真撮影は益永浩仁が行った。また、遺構・遺物の製図は赤星ひとみ・益永が行った。
4. 本調査において出土した遺物及び実測図・写真等の資料は、和水町教育委員会で保管している。
5. 本書の執筆・編集は益永が行った。

本文目次

I	調査の概要	1
1	調査の経緯	1
2	調査の組織	1
II	遺跡の概要	1
1	地理的環境	1
2	歴史的環境	1
III	調査の成果	4
1	竪穴式住居跡	5
2	溝状遺構	6
3	出土遺物	6
IV	まとめ	9

挿図目次

第1図	熊本県玉名郡和水町域及び調査区位置図	2
第2図	諏訪原遺跡周辺遺跡地図	3
第3図	遺構配置図	4
第4図	竪穴式住居実測図	5
第5図	西側溝状遺構断面実測図	6
第6図	出土遺物実測図	7

表目次

表1	周辺遺跡一覧	3
表2	出土遺物観察表	8

写 真 図 版

- 図版 1 全景（北西から）、全景（南東から）
- 図版 2 竪穴式住居跡掘下げ前（北から）、遺物出土（北から）、完掘（北から）
- 図版 3 西側溝状遺構（北西・南から）、北側断面
- 図版 4 東側溝状遺構掘下げ前（南から）、遺物出土（南から）、完掘（南から）
- 図版 5 住居跡調査作業風景、住居跡内出土遺物（土器片・炭）、住居跡床面の焼土
- 図版 6 調査開始前（東から）、調査中（東から）、道路改良工事完成（東から）
- 図版 7 出土遺物 1 ～ 26
- 図版 8 出土遺物 27 ～ 39

I 調査の概要

1 調査の経緯

平成20年度事業として和水町建設課より道路整備に伴い、町道前原・浦谷線の道路改良計画があり、その計画地について文化財有無の照会があった。和水町教育委員会では埋蔵文化財包蔵地内及びその周辺地の和水町原口867、869、878-1番地について、試掘・確認調査（平成20年5月27日）を実施した。その結果、原口869番地から弥生時代の土器片数点と溝状遺構が検出され、同地は諏訪原遺跡域内の北北東に位置することから、弥生時代の集落跡に関連する遺跡の存在が予測された。その結果内容を踏まえて関係機関と協議したうえで埋蔵文化財発掘調査の届出（同年5月30日）を行った。発掘作業は、同年7月22日から11月4日まで実施し、平成21年3月30日まで資料整理を行った。

2 調査の組織

調査主体	和水町教育委員会
調査責任者	相澤紘一（教育長）
調査者	益永浩仁（総合教育課文化係参事）
調査事務局	宮地幸子（総合教育課長）、黒田裕司（総合教育課文化係長） 居石裕臣（総合教育課文化係参事）
調査作業員	石原紀久代、今田洋輔、柴尾博、嶋添由理子、高崎ハル子、西村清美、平田稔 横田浩、米澤有斐子
整理作業員	赤星ひとみ

II 遺跡の概要

1 地理的環境

和水町は、熊本県北西部、福岡県との県境に位置し、北は福岡県立花町、東は山鹿市、南は玉名市・玉東町、西は南関町と隣接しており、平野部の美しい農村景観と山間部の豊かな森林資源を有する中山間地域です。また、菊池川と緑の山々など豊かな自然と「江田船山古墳」「田中城跡」「豊前街道」を代表とする数多くの歴史的資源にも恵まれています。

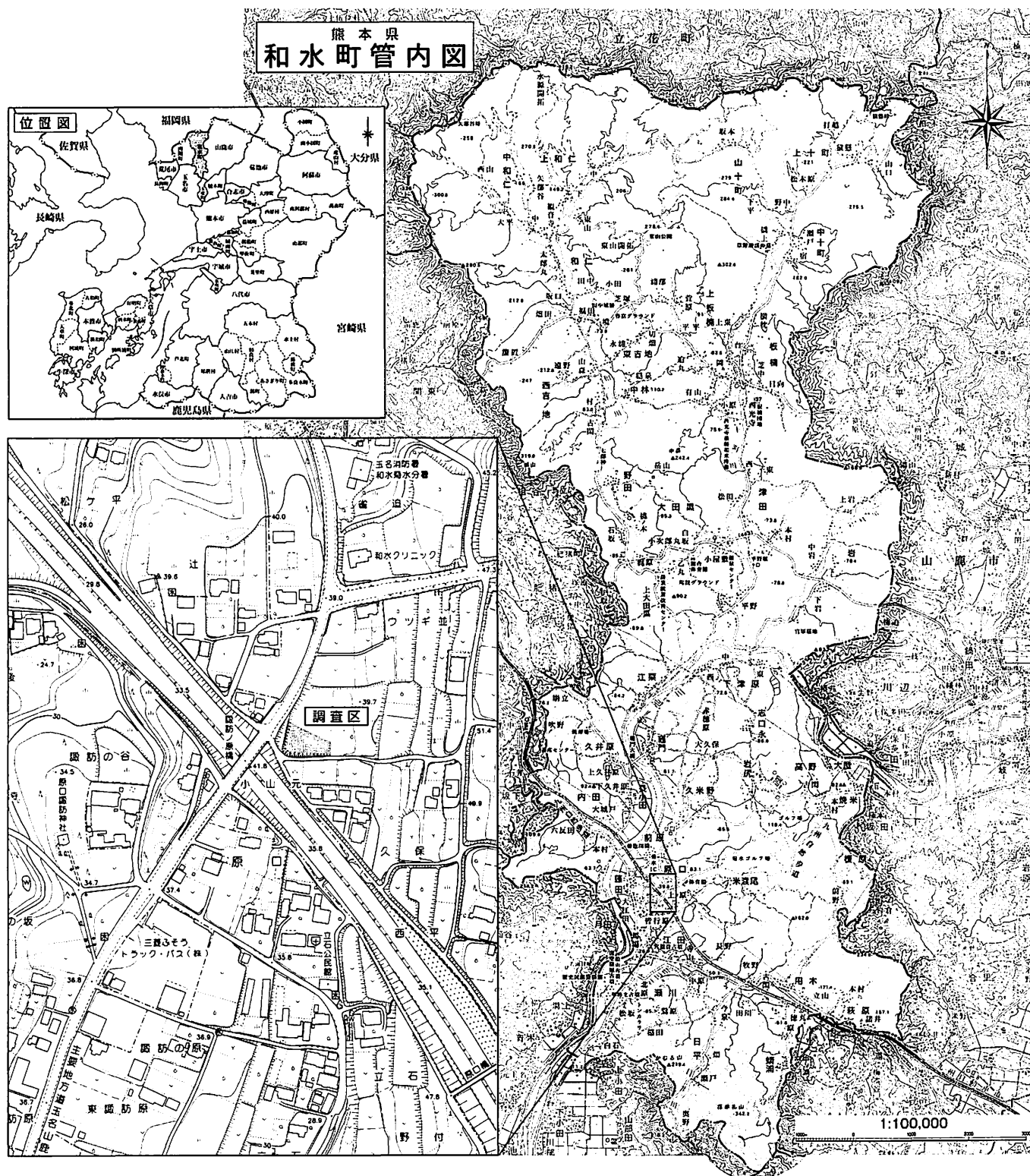
県北部を流れる菊池川は全長61.2km・流域面積996km²の一級河川である。本町の中央部を北東から南西に蛇行しながら流れており、この菊池川を見下ろすように舌状丘陵が幾つも伸びており、本遺跡もその一つである。この流域には、めぐまれた自然環境を背景に、すぐれた古代文化が営まれ、数多くの貴重な文化財が残されている。

2 歴史的環境

諏訪原遺跡は、熊本県玉名郡和水町原口及び江田に位置し、県北部を流れる菊池川によって形成された菊鹿平野と玉名平野の間の山間部にある諏訪原台地（標高約30～40m、東西400m・

南北800m)一帯に分布する遺跡で弥生時代後期の大規模集落として注目されている。

諏訪原台地にはいろいろな遺跡が点在する。台地北端に前原長溝甕棺群があり、西端の中央と南側には札木甕棺群・馬場道ノ上甕棺群がある。この3ヶ所は弥生時代後期の甕棺群である。そして台地の南端に国史跡の江田穴観音古墳・県指定史跡の若宮古墳が点在し、台地中央には古代官道の江田駅跡推定地がある。また、縄文時代の遺構・遺物も検出されているので、この台地は縄文時代から現代に至るまで先人たちが残した貴重な痕跡が存在する場所である。

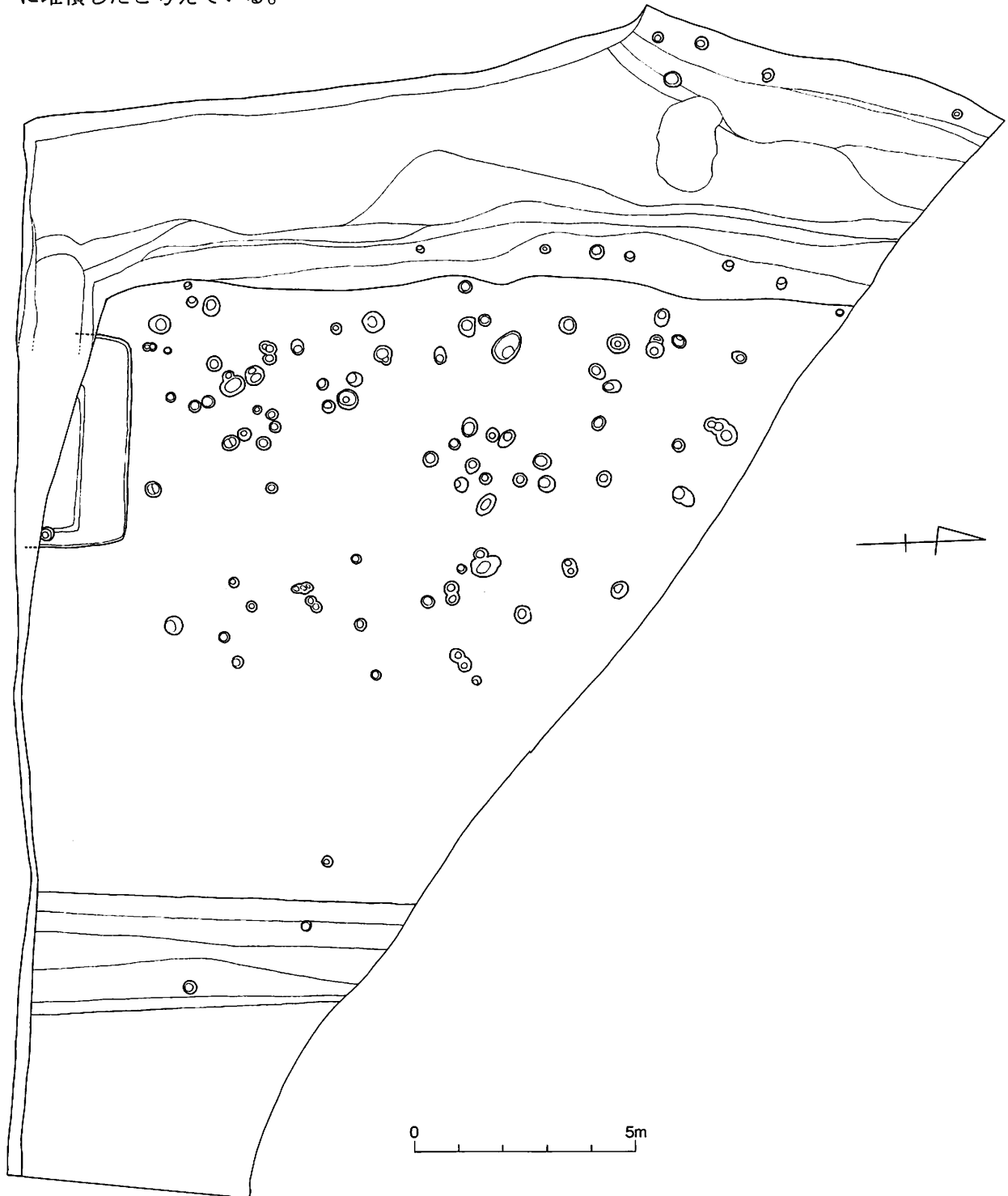


第1図 熊本県玉名郡和水町域及び調査区位置図

Ⅲ 調査の成果

調査区全体で竪穴式住居跡 1 基、溝状遺構 3 ヶ所、ピット跡約 90 基及び遺物を検出した。

調査区における土層の一般的層位は、第Ⅰ層表土・第Ⅱ層暗茶褐色土(砂まじり)・第Ⅲ層黒褐色土・第Ⅳ層黒色土・第Ⅴ層暗褐色土・第Ⅵ層明褐色粘質土(ローム)である。しかし調査区の西側から東側にかけて傾斜しており、東側の一番深い層では、第Ⅴ層の下層に明褐色土層、暗褐色粘質土、黒褐色粘質土、ロームが存在していた。遺物・遺構はなく、低地(窪地)へ自然的に堆積したと考えている。



第3図 遺構配置図

1 竪穴式住居跡

本調査で1基の竪穴式住居跡を検出した。

調査区の南端中央部に位置し南側半分が後世のかく乱で確認できなかった。

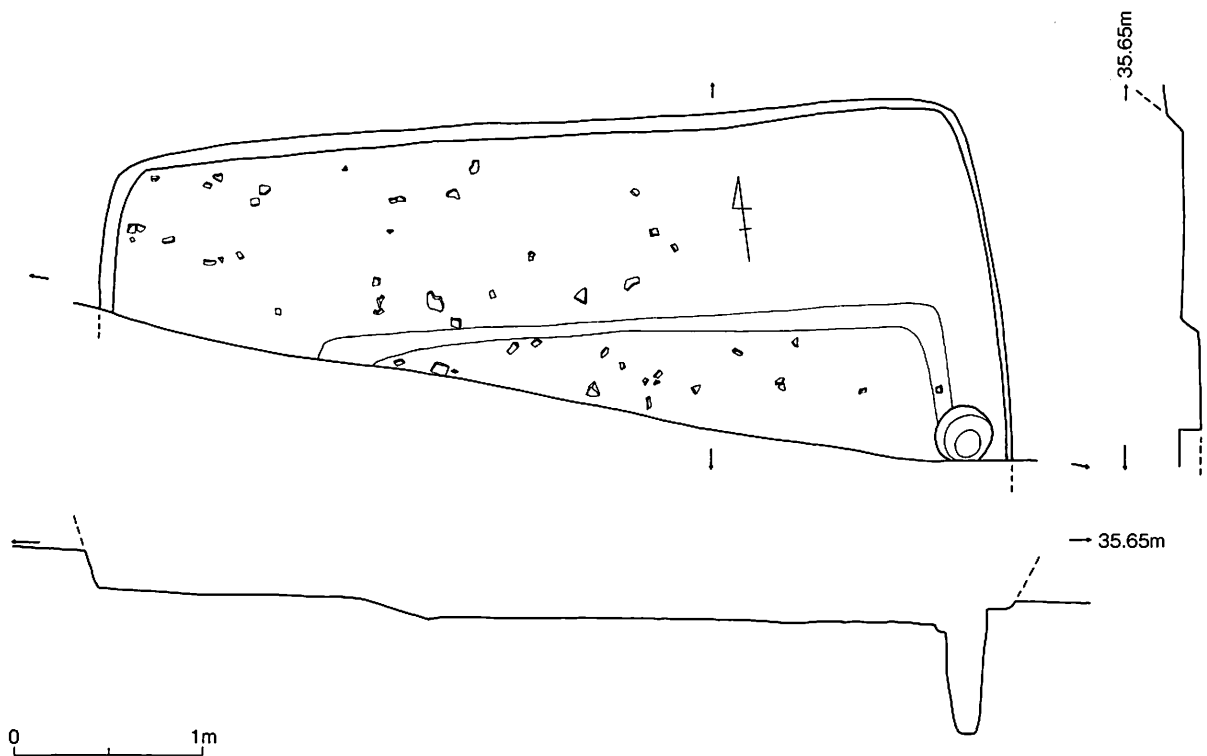
大きさは東西4.8m、南北1.9m(現存長)、遺構面からの深さ35cm。北側に東西方向の幅1.0mのベッドが設けられ、また西側の一部にも確認できるのでL字形に配置されていたと考えられる。

柱穴は1個が確認できた。柱穴の大きさは径27cm、深さ66cm。柱の数は、検出された柱穴の位置からみると4本の柱では建物が大きくなるので、長軸を東西に2本の柱が建っていた構造であると考ええる。

床には硬化面が全面に残っていた。また、床面に炭化材が堆積していることと、床面に部分的ではあるが焼土が残っていたため、この住居は焼失した可能性がある。

炉は検出できなかった。かく乱の部分に存在していたと考える。

出土遺物は、51点あり全て土器の小片である。原型が想定できる遺物7点(甕3点、高坏2点、器台1点、埴1点)を図化した。



第4図 竪穴式住居実測図

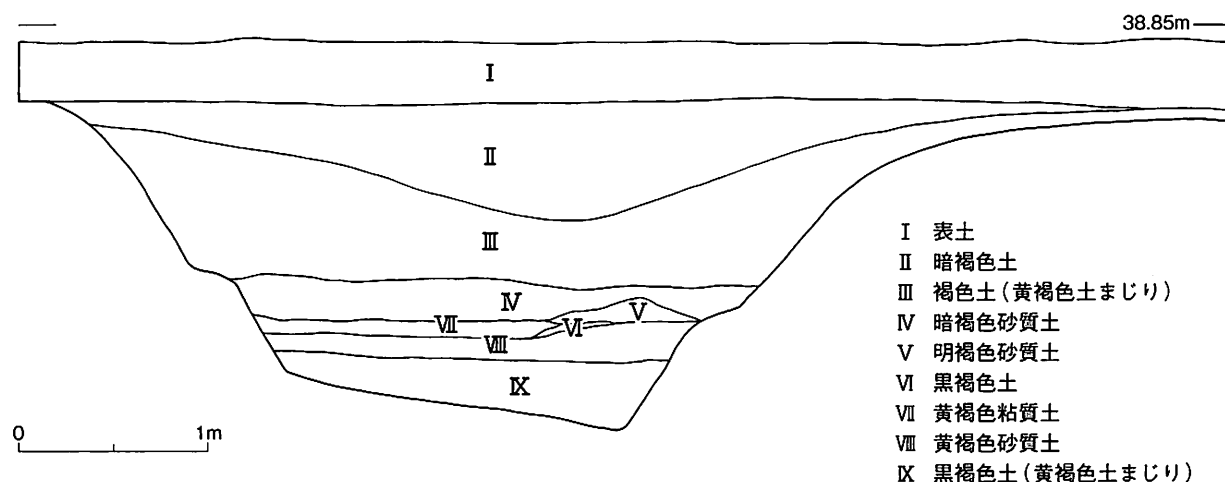
2 溝状遺構

西側溝状遺構は調査区の西側を南北に縦断し、幅5.8m、深さ1.7m、長さ21.0m（現存長）の溝を検出した。調査区の西側は遺構面から見ると約3m高く傾斜している。埋土は整層堆積しており、故意に埋められた状況は見られなかった。埋土の土層はⅠ層表土、Ⅱ層暗褐色土（にごっている）、Ⅲ層褐色土（黄褐色土まじり）、Ⅳ層暗褐色砂質土、Ⅴ層明褐色砂質土、Ⅵ層黒褐色土、Ⅶ層黄褐色粘質土、Ⅷ層黄褐色砂質土、Ⅸ層黒褐色土（黄褐色土まじり）である。全体的に砂粒がまじり引き締まった状態であり、隣接して検出された弥生時代の遺構内は粒子の細かくやわらかい層とは別であった。遺物は弥生時代から近世にかけての物が約200点出土し、その内13点（弥生土器片3点、磁器片6点、瓦質土器片2点、須恵器1点、石器1点）を図化した。

東側溝状遺構は調査区の東側を南北に縦断し、幅2.8m、深さ0.4m、長さ8.5m（確認長）を検出した。遺構の深さは浅く、中央部分よりもその左右が少し深くなっている。また中央部分の底が硬化しており、道路として使用したように見受けられる。土層は黒色土層の一層であった。遺物は弥生時代の土器片が90点出土し、その内5点（甕4点、ジョッキ形土器1点）を図化した。

南側溝状遺構は調査区の南側に位置し、西側溝状遺構と隣接する幅0.8m（確認長）、深さ0.9m、長さ1.0m（確認長）の一部分を検出した。遺物は出土しなかった。

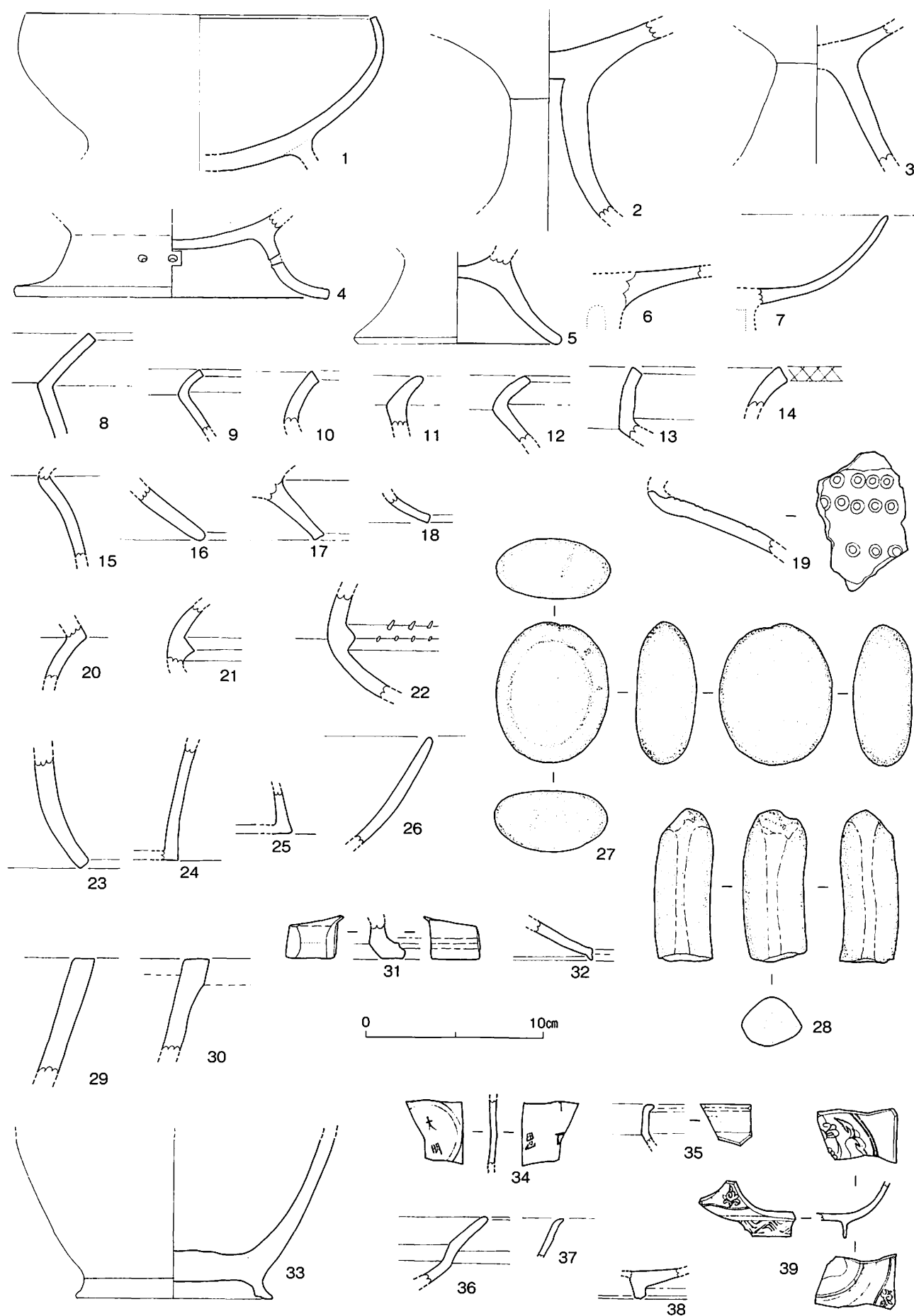
西側溝状遺構の斜面を掘下げ南側溝状遺構が造られている。埋土の土層は西側溝状遺構の状況とは違って2層であった。両方の時期は埋土の状況からみて、南側溝状遺構が後に造られていると考える。用途については、調査面積が狭かったのでわからなかった。



第5図 西側溝状遺構断面実測図

3 出土遺物

包含層より検出した遺物の中から11点（壺4点、高坏3点、甕1点、硯1点、瓦質土器1点、石器1点）を図化した。また、ピット跡内から検出した遺物の中から3点（壺2点、高坏1点）を図化した。



第6图 出土遗物实测图

表2 出土遺物観察表

番号	出土遺構	種類	器種	部位	残存	法量				調整		色調		焼成	備考
						口径	胴径	低径	器高	外面	内面	外面	内面		
1	包含層	弥生土器	高坏	坏部	1/2	19.6	20.4	—	(8.7)	ハケ	ハケ	暗茶褐色	暗褐色	普通	
2	包含層	弥生土器	高坏		1/2	—	—	—	(11.1)	—	ナデ	明褐色	明褐色	やや不良	
3	ビット跡内	弥生土器	高坏	胴部～底部	1/5	—	—	—	(7.1)	ヨコハケ	ハケ	暗灰黄褐色	暗灰黄褐色	良	No35
4	包含層	弥生土器	高坏	脚部	1/3	—	—	17.6	(3.3)	ヨコハケ	ヨコハケ	明褐色	明褐色	良	
5	西側溝内	弥生土器	甕	底部	1/5	—	—	11.6	(4.5)	ヨコハケ	ヨコハケ	にぶい赤褐色	暗赤褐色	普通	
6	住居跡内	弥生土器	高坏		小片	—	—	—	(4.5)	—	—	明褐色	明褐色	やや不良	
7	住居跡内	弥生土器	高坏	上部	小片	—	—	—	(8.4)	ハケ	ハケ	明褐色	明褐色	良	
8	包含層	弥生土器	甕	口縁部	小片	—	—	—	(5.7)	タテハケ	ヨコハケ	暗灰黄褐色	灰黄褐色	普通	
9	住居跡内	弥生土器	甕	口縁部	小片	—	—	—	(3.5)	タテハケ	ヨコハケ	褐色	褐色	良	
10	東側溝内	弥生土器	甕	口縁部	小片	—	—	—	(3.0)	ヨコハケ	ヨコハケ	黒褐色	明褐色	普通	
11	東側溝内	弥生土器	甕	口縁部	小片	—	—	—	(3.0)	—	—	褐色	暗褐色	良	
12	包含層	弥生土器	壺	口縁部	小片	—	—	—	(3.6)	ヨコハケ	タテハケ	暗茶褐色	暗茶褐色	普通	
13	西側溝内	弥生土器	壺	口縁部	小片	—	—	—	(3.7)	ヨコハケ	ヨコハケ	明褐色	暗褐色	普通	
14	包含層	弥生土器	壺	口縁部	小片	—	—	—	(2.1)	ヨコハケ	—	明褐色	明褐色	良	
15	住居跡内	弥生土器	甕	胴部	小片	—	—	—	(4.9)	ハケ	ハケ	明褐色	明褐色	やや不良	
16	東側溝内	弥生土器	甕	底部	小片	—	—	—	(4.0)	ヨコハケ	ヨコハケ	明褐色	暗褐色	普通	
17	東側溝内	弥生土器	甕	底部	小片	—	—	—	(3.8)	タテハケ	ヨコハケ	暗褐色	暗褐色	やや不良	
18	住居跡内	弥生土器	甕?	底部	小片	—	—	—	(2.2)	ハケ	ハケ	灰色	明灰色	普通	
19	包含層	弥生土器	壺		小片	—	—	—	(7.4)	ハケ	ハケ	暗灰茶褐色	暗灰茶褐色	やや不良	
20	ビット跡内	弥生土器	壺		小片	—	—	—	(3.1)	ハケ	—	灰黄褐色	灰黄褐色	普通	No53
21	ビット跡内	弥生土器	壺		小片	—	—	—	(3.0)	ヨコハケ	タテハケ	暗灰褐色	暗灰褐色	普通	No1
22	包含層	弥生土器	壺	首部	小片	—	—	—	(5.3)	タテハケ	ハケ	暗褐色	褐色	普通	
23	住居跡内	弥生土器	器台	底部	小片	—	—	—	(6.5)	タテハケ	ナデ	褐色	暗褐色	普通	
24	東側溝内	弥生土器	ジョッキ形土器	底部	小片	—	—	—	(6.3)	ハケ	ナデ	灰黄褐色	暗灰黄褐色	良	
25	西側溝内	弥生土器	ジョッキ形土器	底部	小片	—	—	—	(2.3)	ヨコハケ	ナデ	暗灰黄褐色	暗灰黄褐色	良	
26	住居跡内	弥生土器	埴		小片	—	—	—	(7.0)	タテハケ	ハケ	暗茶褐色	褐色	普通	
27	西側溝内	石器	すり石		完形	縦7.9 横6.4 幅3.4				—	—	—	—	—	
28	包含層	石器			1/2	縦(8.5) 横(3.4) 幅(3.2)				—	—	—	—	—	
29	西側溝内	瓦質土器	すり鉢		小片	—	—	—	(6.4)	—	—	淡灰色	暗灰色	普通	
30	西側溝内	瓦質土器	すり鉢	口縁部	小片	—	—	—	(5.0)	ヨコハケ	ヨコハケ	黒褐色	黒褐色	良	
31	包含層	須恵器	硯	底部	小片	—	—	—	(2.3)	ヨコハケ	ヨコハケ	淡灰色	青灰色	普通	透かしあり
32	西側溝内	須恵器	高坏?	底部	小片	—	—	—	(3.6)	ヨコハケ	ヨコハケ	灰黄色	灰黄色	普通	
33	包含層	瓦質土器	蔵骨器?	胴部～底部	1/2	—	(17.2)	11.0	(9.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	黒茶色・灰色	灰黄色	普通	
34	西側溝内	磁器	皿		小片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
35	西側溝内	磁器	瓶	口縁部	小片	—	—	—	(2.2)	—	—	—	—	—	
36	西側溝内	磁器	浅鉢	口縁部	小片	—	—	—	(4.6)	—	—	—	—	—	
37	西側溝内	磁器	碗	口縁部	小片	—	—	—	(2.4)	—	—	—	—	—	
38	西側溝内	磁器	皿	底部	小片	—	—	—	(1.6)	—	—	—	—	—	
39	西側溝内	磁器	茶碗		小片	—	—	—	(3.2)	—	—	—	—	—	

Ⅳ まとめ

今回の調査区は諏訪原遺跡の北北東に位置し、昭和45年度に熊本県が実施した九州縦貫自動車道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査区の東側段下にあたる。昭和45年度の調査では縄文時代の土坑等2基、弥生時代の竪穴式住居跡73基、土坑12基、条溝7ヵ所、歴史時代の土坑1基が検出されている。遺跡の中核をなすものは弥生時代後期の住居跡であり、それが集落を形成して密集していることである。

今回の調査で検出された遺構は、弥生時代の竪穴式住居跡1基、溝状遺構3ヶ所、その他ピット跡約90基で、遺物は主に弥生土器片であるが、中世・近世の遺物も出土した。

竪穴式住居跡は、後世のかく乱により半分しか確認できなかったが、一辺(東西)が4.8m、ベットが設けられ、支柱は東西の2本であると思われる。年代は建物の構造や遺物からみて弥生時代後期である。

溝状遺構は3ヶ所検出した。東側溝状遺構は、埋土の中から90点の弥生土器片(小片)が出土し、ジョッキ形土器片が弥生時代後期に属するため、竪穴式住居跡と同時期のものとする。しかし溝としては浅く、底の中央部が細長く硬化しており、踏み固めた状態であったので「道」として使用したのではないかと考える。

西側溝状遺構は、埋土が全体的に砂粒まじりでにごっている状態であり、出土遺物も各層において弥生時代から近世までのものが出土している。通常の弥生時代の遺構ならば、集落地の周りに廻らす環濠の規模に相当し、自然の層が堆積した状態の中から遺物等が出土する場合が多く、埋土も細やかな土層であるため、この溝状遺構は、弥生時代のものとは異なり、古代若しくは中世の道路遺構と考えている。この調査区から南へ約500mの所に古代官道の江田駅推定地があり、官道も東西方向に延びているのが確認されている。また、南北に延びる道路遺構も確認されており、その延長上にこの道路遺構があっても良いと思うが、時期的な問題等をもう少し検証する必要がある。

南側溝状遺構は、西側溝状遺構を削って造られているため、時期的には西側溝状遺構の後に造成されたと考える。用途は調査面積が狭くわからなかった。

調査の結果、当地には弥生時代後期の住居跡と古代・中世の道路関係遺跡が存在するのが確認できた。弥生時代後期の集落範囲は、全体的に出土状況からみて遺構・遺物等は西側に集中し、東側に行くほど少なく低地へと下がるため、諏訪原遺跡の東端と考える。西側溝状遺構は、古代若しくは中世の道路跡と考えているが、土層断面・出土遺物の状況や周辺地形を考えると多くの疑問点が残る。全容は未だに不明な点が多いが、今後の調査等により少しずつ解明しなければならない。

参考文献

「諏訪原遺跡発掘調査概報」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査概報』 熊本県九州縦貫自動車道関係文化財調査団 1971 年

『諏訪原』 菊水町文化財報告第 4 集 菊水町教育委員会 1982 年

『諏訪原遺跡』 菊水町文化財調査報告 菊水町教育委員会 1996 年

『方保田東原遺跡(9)』 山鹿市文化財調査報告書第 6 集 山鹿市教育委員会 2008 年

写 真 图 版

図版 1



全景（北西から）



全景（南東から）

図版 2



竪穴式住居跡掘下げ前（北から）



遺物出土（北から）



完掘（北から）

図版 3



西側溝状遺構（北西から）



西側溝状遺構（南から）

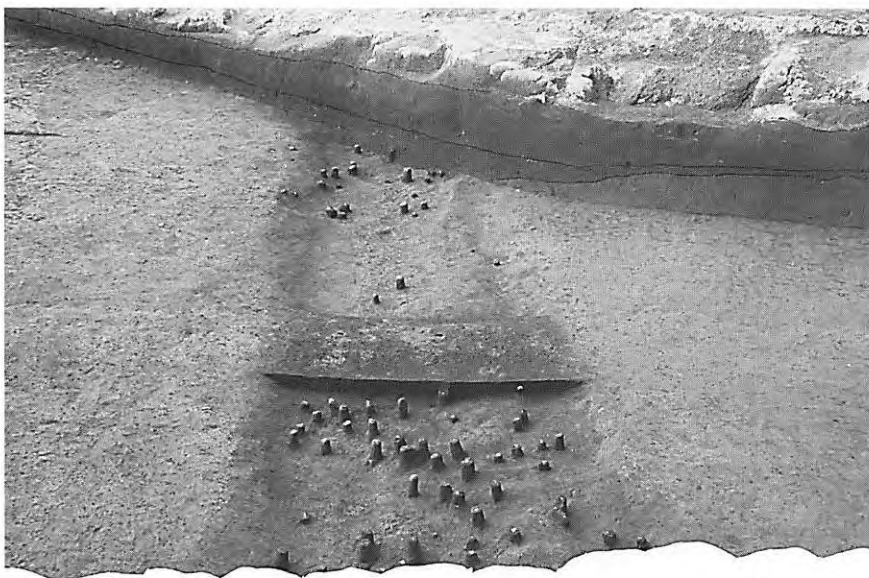


西側溝状遺構北側断面

図版 4



東側溝状遺構掘下げ前(南から)



遺物出土(南から)



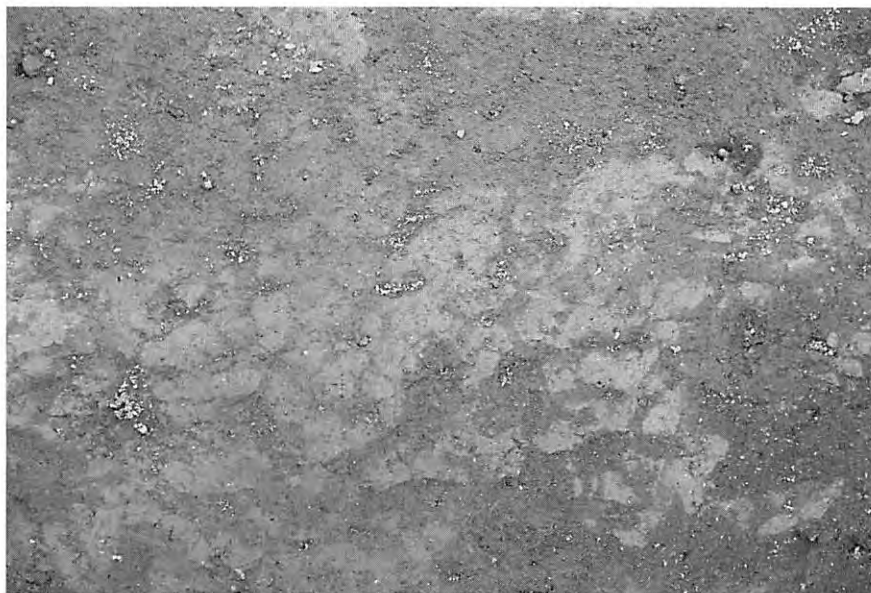
完掘(南から)



住居跡調査作業風景



住居跡内出土遺物(土器片・炭)



住居跡床面の焼土

図版 6



調査開始前（東から）

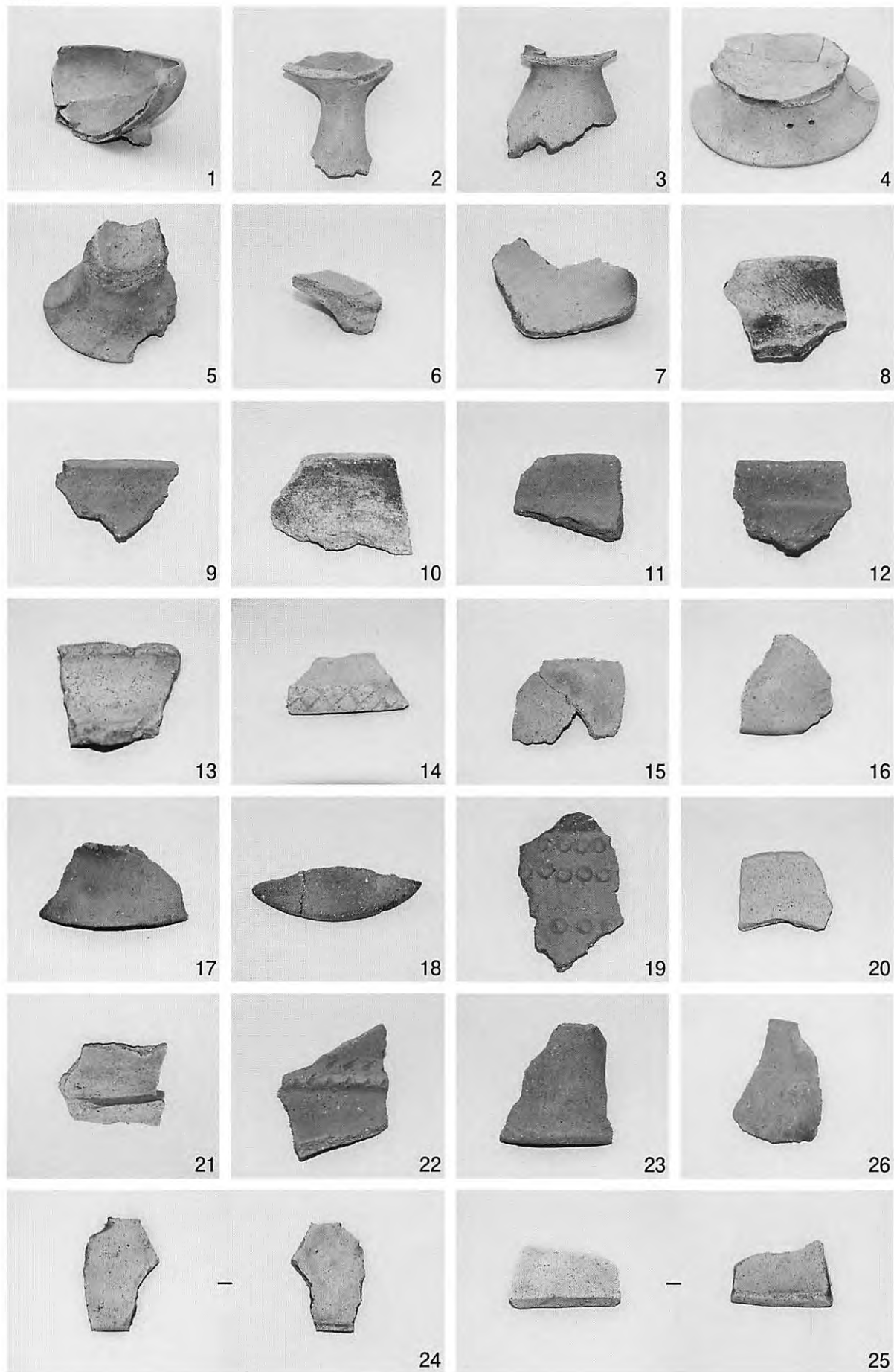


調査中（東から）

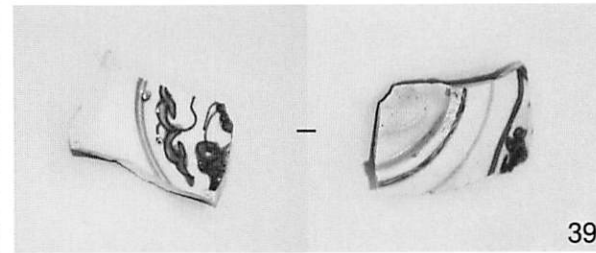
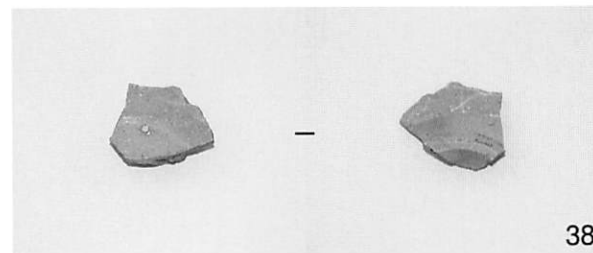
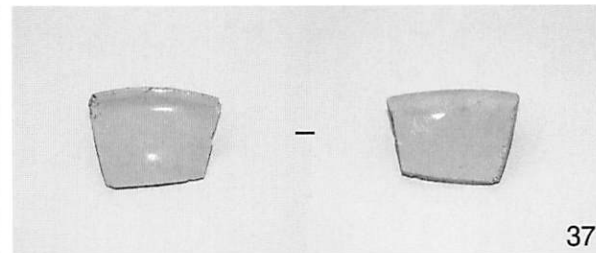
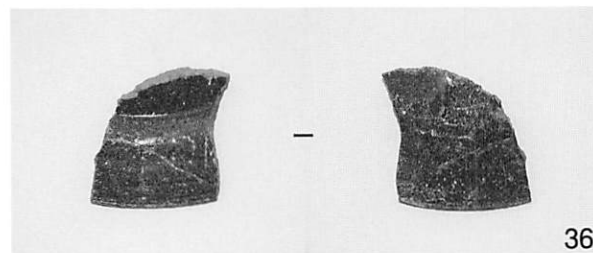
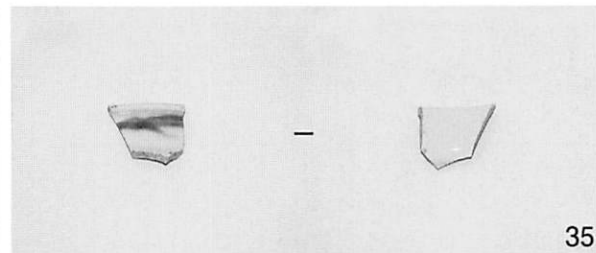
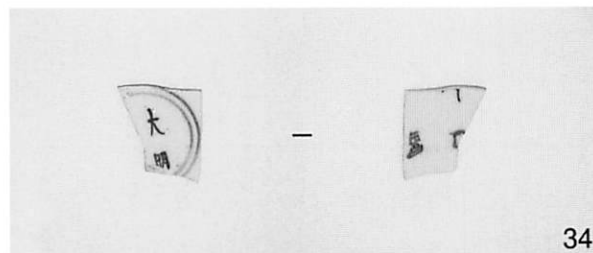
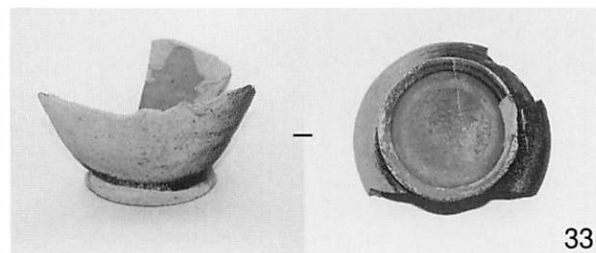
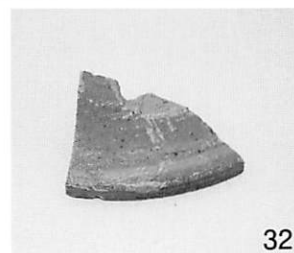
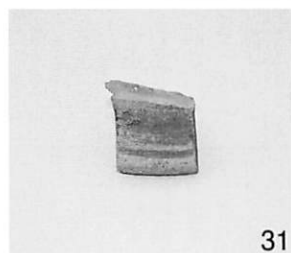
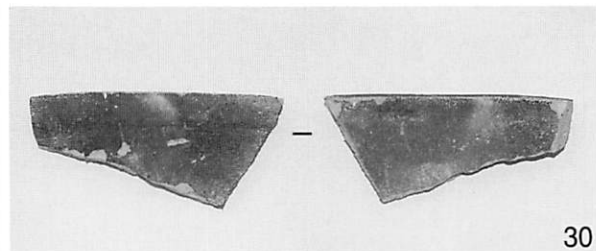
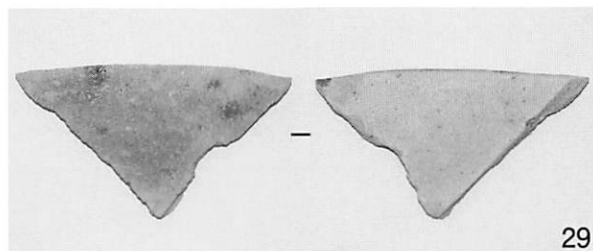
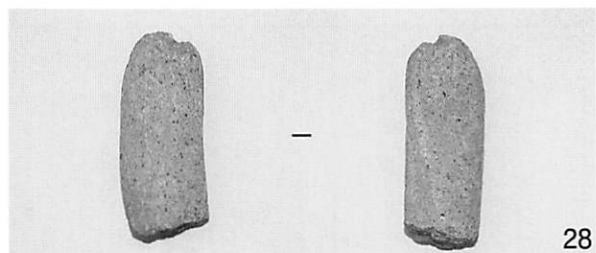
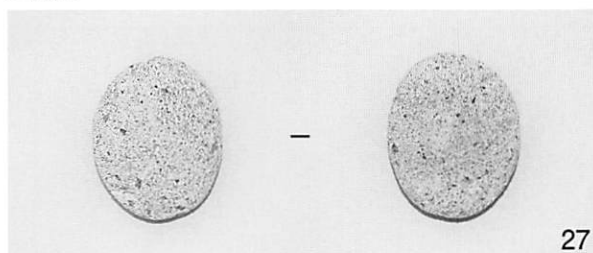


道路改良工事完成（東から）

图版 7



图版 8



報 告 書 抄 録

書 名	諏訪原遺跡（すわのはらいせき）
シリーズ名	和水町文化財調査報告 第6集
副 書 名	前原・浦谷線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
編 著 者 名	益永浩仁
編 集 機 関	和水町教育委員会
所 在 地	熊本県玉名郡和水町江田 3886
発行年月日	平成21年(2009) 3月31日

ふりがな		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地					
すわのはら いせき 諏訪原遺跡	くまもとけんたま な ぐん 熊本県玉名郡 なごみ まちはらぐち 和水町原口	32度 59分6秒	130度 36分32秒	平成20年7月22日から 平成20年11月4日まで	800㎡	道路改良 工事

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
諏訪原遺跡	集落	弥生時代後期 中・近世	竪穴式住居 溝状遺構	弥生土器、石器、瓦質土器 須恵器、磁器	

和水町文化財調査報告 第6集

諏訪原遺跡

平成21年 3 月31日

〔編集発行〕

和水町教育委員会

〒865-0192 熊本県玉名郡和水町江田3886

☎0968-86-3131

〔印 刷〕

西本印刷

〒861-2241 熊本県上益城郡益城町宮園564-2

☎096-286-4151
